



海外日本語教育レポート

第1回

北京日本学研究中心 横山紀子



このコーナーでは、海外の日本語教育について広く情報を交換したり、お互いの交流をはかるために、各地域の新しい試みやコース運営などについて、関係者の方々具体的に紹介していただきます。

北京日本学研究中心・ 在職修士課程日本語教師研修コースについて

北京日本学研究中心（以下「センター」）では、2001年9月、中国の大学で教える日本語教師のための在職修士課程日本語教師研修コース（以下「在職コース」）を開設した。本稿では、この新しいコースの目的や内容を紹介するとともに、現在まだ1学期を終えたばかりの同コースの進捗状況を報告する。

北京日本学研究中心について：

センターは、1985年、中国における日本語教育、日本研究のための人材養成を目的として国際交流基金および中国教育部の協議により設立された。北京外国語大学内に設置されたセンターは、「言語」「文学」「文化」「社会」の4つの日本語研究コースを持つ「修士課程」「博士課程」をすでに運営しており、このたび新たに「日本語教育学」の在職コースを新設したのである。教授スタッフは、中国側専任教員10名（2002年2月現在）のほか、ほぼ同数の日本人教員が学期ごとに日本から派遣される。教育、研究および運営のすべてを中日共同作業で行う機関である。

コースの背景：

在職コースの前身に当たるのは、1980年に設立された「日本語研修センター」の教師研修コースである。故・大平正芳氏の首相時代に設置されたことから、通称「大平学校」と呼ばれる同コースは、1985年までに約600名の現職日本語教員の再教育を行った。「大平学校」の修了生は、現在中国各地の大学で日本語教育の中心的存在として活躍している。

1985年からは北京日本学研究中心において教師研修は続けられ、その修了生は総数約400名に上り、中国の日本語教育の質の向上に貢献してきた。しかし、この間、中国の大学が教員に求める資格や水準は徐々に高くなり、それに応える形で、これまでの研修コースを発展的に解消し、新たに在職コースを新設したのである。現職の大学教員のための在職コースは、中国教育部が制定した制度に基づいており、他の専門分野でも広く行われているが、日本語教育学の在職コースを設置するのはセンターが初めてである。

コースの特徴：

コースの特徴を3点あげたい。

在職コースの修士論文は、日本語教育学、日本語学、日本概況（日本事情を中心とした日本研究）の3分野からテーマを選ぶことができるが、日本語学あるいは日本概況の分野をテーマとする場合には、日本語教育への応用という観点からの分析や考察が求められる。中国の大学の日本語教師は、一般に日本語運用力が高く、研究者としても優秀な人材が多いことがよく知られている。ただ、その研究者としての専門分野は、これまで日本語学や文学などの日本研究に集中しており、言語教育の方法論や学習過程の研究には関心が薄かったと思われる。しかし、近年、大学生人口の増加や学習目的の多様化といった現象を受け、新しい教材や教育方法に対するニーズが高まってきている。そのような中で、日本語教育学を中心に据え、「教育」や「学習」への視点を不可欠としたことがコースの第一の特徴である。

もう一つの特徴は、このコースが中日共同運営であることから、中国の「内から」と「外から」双方の視点を持って構成されていることである。中国における日本語教育の経緯や現状をよく知った中国人教員と、日本や他国の日本語教育学の成果を紹介する役割を担った日本人教員とが密接に協力することで、中国の現状に合った日本語教育学を確立することを目指している。

さらにもう一つの特徴は、一部の科目をセンターに並行設置されている日本研究「修士課程」との共通開講とし、日本研究の教授スタッフからも専門的な指導が受けられることである。中国の大学で日本語を専攻した学生の中には大学院に進んで日本研究を専門にしている者も多く、そのような将来的可能性を持つ学生を指導するに当たっては、教師自身も日本研究の基礎を学んでおくことが必要だと考えられるからである。

コースの概要： がいよう

コースの進行過程は次の通りである。1年目はセンターで集中的にコースワークを行い、2年目以降は各自の所属大学に戻って職務を行いながら2年間で修士論文を執筆する。なお、応募資格としては、3年以上の教育経験があること、45歳以下であることが条件とされている。1学年の定員は最大10名である。

- 1年目
ねんめ
- 9月～1月初旬(18週間) : 北京日本学研究中心で講義受講(第1学期)
 - 3月～7月初旬(18週間) : 同上(第2学期)
 - 7月初旬～8月初旬(約4週間) : 訪日研修(資料収集、研究計画について専門家との面談など)
- 2年目
ねんめ
- 9月～ : 所属大学に戻り就業。同時に論文執筆開始
 - 1月(予定) : 第1回修士論文中間報告会および集中指導
- 3年目
ねんめ
- 8月(予定) : 第2回修士論文中間報告会および集中指導
 - 2月 : 修士論文提出
 - 5月 : 修士論文審査

カリキュラム：

カリキュラムは、日本語教育学、日本語学、日本概況の3分野を基軸としており、具体的な講義科目は下の表の通りである。必要履修単位は38単位である。

在職修士日本語教師研修コース・講義科目表

	科目名	1学期	2学期	単位数	
公共必修	マルクス主義理論			8	
	英語				
専門必修科目	日本語教育学概論			12	
	言語学・日本語学概論				
	日本語表現				
	日本概況				
	日本学総合講座				
専門選択必修科目	日本文学基礎研究Ⅰ、Ⅱ	(2/6科目)		4	
	日本社会基礎研究Ⅰ、Ⅱ				
	日本文化基礎研究Ⅰ、Ⅱ				
	教育学演習	(1/5科目)		2	
	教育学演習				
	中日対照言語学演習				
	日本語学演習				
	日本概況教育論演習				
	選択科目	日本語教育学文献講読Ⅰ	(3/5科目)		6
		日本語教育学文献講読Ⅱ			
中日対照言語学文献講読					
日本語学文献講読					
日本概況教育学文献講読					
教育学実習		6			
文学理論					
社会研究原論					
文化研究理論					
日中文学文化比較研究					
日本語表現Ⅱ					
古典文法					
コンピューター・リテラシー					
最低必要履修単位			38		

必修 選択必修 選択
ひつよう せんたくひつよう せんたく